

# 深谷市周辺 公園放射線マップ 1

2013年秋～2014年春



## HSF市民測定所・深谷について

子どもたちを放射能から守りたいと願う市民グループによって、2013年秋に設立されました。高性能なGPS連動型放射線測定器(HSF)を用いて、埼玉県北部の子どもの集まる場所を中心に、空間線量を測定し、これを見える形で公表します。

公開ホームページ：<http://hsfnet.jimdo.com/>

発行：HSF市民測定所・深谷

連絡先：電話 090 9829 8558 (小泉)

メール：[hsf@kzmj.sakura.ne.jp](mailto:hsf@kzmj.sakura.ne.jp)

配布：3.11市民ネット深谷

ホームページ：<http://fukaya311.jimdo.com/>



HSF市民測定所・深谷

## 数値をどう判断するか

子どもは大人よりも放射線への感受性が高く、その差は二倍～数十倍と言われます。同じものを食べ、同じ場所にいる、子どもは常に大人よりも危険なものを食べ、危険な場所にいることを、わたしたち大人は忘れてはならないと思います。

人体が放射線を浴びることを「被ばく（被曝）」といいます。被ばくには、体の外にある放射性物質によって被ばくする「外部被ばく」と、呼吸・飲食・皮膚などを通じて体内に入った放射性物質で被ばくする「内部被ばく」とがあります。

放射線の被ばくには、「これ以下なら安全」という「しきい値（境界となる値）」はありません。できるかぎり無用な被ばくを避けることが原則です。

法律の定める被ばく限度は年間1ミリシーベルト(mSv)で、これは国際基準でもあります。現在、これがひとつの目安となり、さまざまな基準値が決められています。

国（環境省）の示す除染基準の0.23 $\mu$ Sv/h（マイクロシーベルト）もそのひとつです。でも、0.23 $\mu$ Sv/h以下なら安全という数値ではありません。この数値は、外部被ばくだけで年間1mSv/hになるとした値で、内部被ばくはその計算に含まれません。

外部被ばくと内部被ばくの比率を1：1と考え、合計被ばく限度を年間1mSv以下とするなら、本当は0.23 $\mu$ Sv/hの半分0.115 $\mu$ Sv/h以上を除染すべきなのかもしれません。チェルノブイリでは、0.114～0.570 $\mu$ Sv/hの区域は「移住権利」の汚染ゾーンとなっています。また、1mSv÷365日÷24時間で0.114 $\mu$ Sv/h以上を除染基準にすべきだという学者もいます。というわけで、0.11 $\mu$ Sv/hあたりがひとつの目安になりそうです。

また、熊谷地方庁舎のモニタリングポストの公表値は、だいたい0.060～0.062 $\mu$ Sv/hです。これより高いか低いかを目安にするのも考え方のひとつです。

さらに、福島第一原発事故以前の関東の空間線量は0.03～0.04 $\mu$ Sv/hであったと言われますので、これも目安のひとつになります。

国が定めた基準といっても絶対ではありません。現在の政府は、「原発を推進する」立場から各種の基準を決めているからです。ともかく、わたしたち市民は、子どもを守る立場から、「できるかぎり無用な被ばくを避ける」という原則に立って、日々の生活を考えていく必要があります。

この冊子の数値は、外部被ばくにかかわるセシウム134 (Cs134)、セシウム137 (Cs137) の空間線量率で、単位は $\mu$ Sv/hです。シーベルトは、放射線による人体の影響を表す単位。使用した測定器(HSF)の数値は、文科省が熊谷地方庁舎に設置した固定型モニタリングポストの示す数値とほぼ一致することを現地で確認しています。これもまた、判断のひとつとしてください。

2014/4/1 HSF市民測定所・深谷 小泉

## 深谷市 中宿歴史公園（岡部地区）

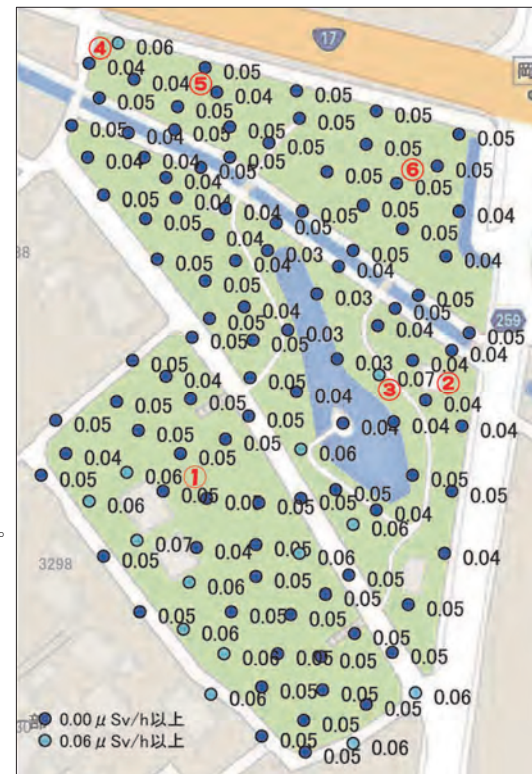
場所	中宿歴史公園（埼玉県深谷市岡 3286-2）		
日時	2014年4月2日 午前10:00～11:20	天気	晴 南の風1m
方法	地上50cm高（5cm高）、定点測定（15秒間測定を5回の平均）・徒歩による移動測定		
機器	ホットスポットファインダー（ポニー工業）CsI(Tl)+半導体型光検出器 MPPC		

今回の移動測定の平均は0.048 $\mu$ Sv/hです。前回2013年9月27日の平均は0.050 $\mu$ Sv/hで、若干ですが空間線量率が低くなりました。

この公園は日本庭園風にデザインされていて、全体は芝生で、水辺には石がふんだんに使われていますが、高い数値が計測されることはありませんでした。地図中③付近の通路でやや高め線量が測定されていますが、ここは土と芝生です。ここも、深谷市内の中では線量率の低い公園といえます。

この春、3つの公園で半年後の再測定を行いました。その結果、すべての公園で前回よりも平均値が下がっています。この中宿公園では意識して、前回と同じように測定しました。当然と言えば当然ですが、平均値が下がるのは、測り方の違いだけではないようです。

公園全体が複雑な造園になっていて、そのぶん測定の手間もかかるわけですが、今回は岡部地区在住のSさんに手伝ってもらい、効率よく測定することができました。高床式倉庫の区画以外は、すべてSさんの測定によるものです。



①高床式倉庫の前（芝生）



②東の東屋の下（コンクリート）



③東の東屋付近の通路（土）



④西端にある砂場中央



⑤ユニバーサルコンビネーション遊具下（芝生）



⑥東側の樹間（土、落ち葉）